

調査項目	実施機関	平成20年度		備考	
		林道環	調査名称等		調査内容
エゾシカ	エゾシカの植生への影響把握	○	知床における森林生態系保全・再生事業(広域調査)	知床岬地区、知床岳周辺地区の2地区に(9本の)混合ベルト調査区を設置し、森林植生(林床草含む)と採食圧を調査	
		○	知床沼・知床岳地区におけるエゾシカ採食圧調査	知床岳・知床沼地域等において植生の状況に応じた固定帯状区を設置し、毎木調査、林床植生調査、エゾシカによる採食痕を把握する。	
		○	知床半島沿岸域希少・在来植物群落調査	2005-2007年度の海岸域における希少・在来植物群落の分布調査を補足し、定点モニタリングサイトとするため斜里側のカムイワッカから岬地区までの調査を実施(未完)。	
		○	知床岬草原におけるエゾシカ採食量調査	イネ科草本、ササ群落等の植生タイプごとに調査枠を設置し、枠内外の植物量を刈り取り収量差により採食量を推定する。	
		○	知床岬植生回復試験調査区モニタリング調査	3箇所の植生保護柵内外の方形区における出現種ごとの優占度、草本層の植被率及び群落高調査を実施する。	
	季節移動把握	○	エゾシカ季節移動調査	エゾシカの季節移動調査のための捕獲・標識付け	
	自然死個体数分析		自然死個体分析	岬における自然死個体分析の実施(H20年度の春期の死亡確認個体数は3)	※斜里町、羅臼町、知床財団等による独自の取り組みとして主要越冬地での自然死亡状況調査等を実施
	シカ生息動向調査	○	航空センサスによる生息動向の把握	航空センサスを2〜3月に実施。	
		○	ライトセンサス(日中センサス含む)による生息動向の調査	ルサ川から相泊川間(羅臼町・毎月)、峰浜地区(道・10月に一回)、幌別岩尾別地区(斜里町・春秋に5日ずつ)でのライトセンサス、真鯉地区(財団・2-3月随時)での日中センサスを実施。	※北海道・斜里町・羅臼町・知床財団で実施
	密度操作実験に係わる調査	○	知床岬における密度操作実験(試験的捕獲)	知床岬でのエゾシカの密度操作実験の実施及び手法の検証	
○		隣接地区(真鯉地区含む)における狩猟による捕獲	エゾシカ可猟区における輪採制システム(輪採制)の試験的導入	※上記採食圧広域調査の一部で植生変化をモニタリング	
土壌浸食状況調査	○	土壌浸食線変動状況調査	知床岬の台地縁部に設置した固定杭を目印として、土壌浸食線の変動状況を調査		
ヒグマ	生息状況調査		知床キムンカムイプロジェクト(H18-20)、ルシャ地区生息状況調査ほか	※北海道国際航空の支援事業を含む知床財団独自調査。	
	人間とヒグマの軋轢に関する実態把握	○	ヒグマの管理対策のための基礎的な情報収集	国立公園、市街地周辺での出没状況や公園利用者等との軋轢に関する現状の把握	
外来種	外来植物	○	アメリカオニアザミの駆除及び効果モニタリング(継続)	知床岬周辺でのアメリカオニアザミの分布状況調査や駆除作業、駆除箇所の経過観察、駆除作業の検証及びモニタリング体制の検討等を実施	
	外来動物(アライグマ)	○	アライグマの侵入状況、捕獲調査	アライグマを対象に、侵入状況調査、被害状況調査を行うとともに、高密度かが予想される地域において箱ワナによる駆除を実施	
	その他外来生物	○	知床連山登山道等におけるセイヨウオオマルハナバチの侵入状況調査 道路沿いにおけるジキタリス等外来植物の除去	セイヨウオオマルハナバチ、ジキタリス等の遺産地域内での分布状況把握及び簡易な駆除、並びに防除に受けた普及啓発を実施	
陸域生態系	シマフクロウ	○	繁殖個体数の確認、標識調査	シマフクロウの生息状況、繁殖状況を調査し、幼鳥に標識を装着	
		○	巣箱改良(捕食者対策)	テンによる捕食を防ぐため、侵入防止のためのアタッチメントを試作、既存巣箱に設置	
	海ワシ類	○	海ワシ類越冬個体数等調査	越冬個体数等調査として、オオワシ・オジロワシが利用している各地域の餌資源の種類をリストアップするとともに、おおまかに入手可能時期と量、利用している個体数等を明らかにする調査を実施(全道での調査)	
		○	海ワシ類自然河川利用形態調査	ワシ類が実際に利用している餌場、止まり場、ねぐらについて、越冬期間中の時期ごとに調べ、それらの必要条件について明らかにする調査を実施。	
		○	海ワシ類渡りルート調査	北海道におけるオオワシ・オジロワシの渡りルートに関する知見をとりまとめるとともに、オオワシの渡り状況について現地調査を実施(全道での調査)	
		○	オジロワシ繁殖状況調査	北海道におけるオジロワシの営巣に関するこれまでの知見をとりまとめ(全道での調査)	
		○	海ワシ類冬期分布調査	斜里側知布泊〜岩尾別、羅臼側麻布漁港〜相泊において、冬期間月2〜4回程度の海ワシ類分布調査を実施。	ウトロ、羅臼両自然保護官事務所
		○	オジロワシ・オオワシ飛来数調査	オジロワシ・オオワシの飛来時期に毎月2〜3回、羅臼川から相泊川区間での海岸線における飛来数のカウントを実施。	※知床財団
		○	オジロワシ・オオワシ一斉調査	オジロワシ・オオワシの飛来時期に年1回、植別川から相泊川区間での海岸線における飛来数のカウントを実施。	※オジロワシ・オオワシ合同調査グループ
		○	知床半島緑の回廊における猛禽類調査	クマタカ等の生息エリアの特定と営巣状況に関するデータ把握	
ケイマフリ	○	ケイマフリ生息調査	ケイマフリの生息海域の分布や繁殖地等の生息状況調査。また、遊覧船等の航路調査や遊覧船等の影響を受ける可能性のある海域での海鳥の分布状況調査等		

調査項目		実施機関		平成20年度		備考			
		林	道	調査名称等	調査内容				
陸水城生態系	鳥類相全般		○	知床岬における鳥類相モニタリング等調査	生態系の回復具合を判定する指標の一つとなりうる鳥類相を対象として、生態系の変化と鳥類相との相関に係る調査を実施。また、知床岬における鳥類相の効率のかつ効果的で定量的な調査手法の検討	20～22年度の3カ年を予定			
	植物	希少植物群落		○	知床半島沿岸域希少・在来植物群落調査（再掲）	2005～2007年度の沿岸域における希少・在来植物群落の分布調査を補足し、定点モニタリングサイトとするため斜里側のカムイワッカから岬地区までの調査を実施（未完）（再掲）			
		植物種インベントリ作成		○	植物種インベントリ作成	北海道大学総合博物館所蔵の知床半島における植物標本の整理を行い、知床半島における植物種のインベントリを作成する。			
		シレットコスミレ		○	シレットコスミレの分布	平成19年度に実施した現存量調査に続き、硫黄山のシレットコスミレ分布地において登山道周辺、分布の中心、ハイマツ辺縁の3地点のモニタリングサイトを選定し、個体数と密度、およびサイズ分布を計測する。			
		植生図調査	○		知床岬先端部の植生図（1/5000）の作成	知床半島（知床沼以北）の植生図を作成するための調査を実施			
	利用圧調査	利用圧によるインパクト		○	知床沼・知床岳地区における荒廃地点調査（上記のエゾシカ採食圧調査を兼ねる）	知床沼・知床岳の登山道荒廃地点に設定した5ヶ所のモニタリングサイトで確認調査			
利用状況			○	知床国立公園の利用実態調査	赤外線カウンター、現地調査等により、知床五湖等の利用拠点、知床岬等の先端部、河口部（のさけ・マス釣り等）、海域等における利用実態把握により、利用者の動向や利用による自然環境への影響を把握				
陸水城生態系	河川工作物	サケ科魚類状況調査		○	平成20年度は休止（隔年実施）				
		河川工作物の影響評価		○	河川工作物の影響評価に資するための調査（河川環境、土砂動態）及び改良によるサケ科魚類の遡上効果の確認	WGの意見を踏まえた河川工作物の影響評価に資するための調査（河川環境、土砂動態及び遡上率、産卵状況等）			
	生態系	海域から陸域への物質輸送				カラフトマス・シロザケを捕食するヒグマの生態 ヒグマなどによるカラフトマス、シロザケの被捕食量に関する	年齢および社会的な関係で変化するヒグマの個体ごとのカラフトマス・シロザケを捕食する生態の調査 河川に遡上するカラフトマス・シロザケの量に対してヒグマなどが捕獲する量を算定する調査	※野生鮭研究所 2004年から実施 ※野生鮭研究所 2004年から実施	
						サケ属魚類の河川遡上動態と陸域生態系への物質輸送に関する調査	主にルジャ川を対象としてサケ属魚類（カラフトマス）の産卵遡上動態を明らかにするとともに、サケ属魚類による海起源物質の陸域生態系への運搬過程を明らかにする。カラフトマスの遡上数と産卵床数の評価技術の確立、河川内に生息するオショロコマや水生昆虫、ヒグマやヤナギ等の陸上動物の安定同位対比分析を実施する。		
	外来種	外来魚の侵入状況				ニジマスやブラウントラウトなどの外来種の侵入状況を把握する調査	遺産地域内とその周辺河川において、潜水目視観察を実施し、外来魚の有無を調査（10月までに3河川で実施）	知床財団実施	
	インベントリ調査	海の生物相調査				知床沿岸の浅海域生物相の把握	知床半島の浅海域を対象とした魚類、無脊椎動物および海藻・海草類の採集調査（同時に岩礁潮間帯において貝類の定量調査を実施）		
					水中ロボット（ROV）を用いた生物群集のモニタリング	北海道大学大学院水産科学研究所のROVを用いて人間による直接的な観測が困難である水深帯の海底環境や分布生物を水中ロボットにより観察し映像として記録する。半島周辺海域に設定した6点程度で水深帯別の観察・記録を行う。			
海藻・海草類	海藻・海草類分布調査				コンブ類分布状況調査	基礎生産を担うコンブ類の分布状況を音響機器を使用して調査するとともに、簡便なコンブ類の現存量把握の手法を確立する。	*岩礁潮間帯の海藻分布状況調査を実施中（知床財団）		
海域生態系	海棲哺乳類	海棲哺乳類調査		○	海棲哺乳類生息状況調査	ラインセンサスによる海棲哺乳類の分布域、個体数、生態等について把握するための生息及び回避実態等調査			
	魚介類	生態調査			○	主要魚種の食物関係調査	知床海洋生態系の主要構成生物である魚類の胃内容分析を実施し、種間関係の重要な要素である食物関係を明らかにする。	*同標本を用いて生物学的基礎データの収集を実施中（知床財団）	
		漁獲量調査			○	パイオロギングによるカラフトマス、シロザケの移動生態調査	海域管理計画の指標種の生態解明のため、指標種であるカラフトマス及びシロザケの沿岸来遊時における移動特性をデータロガー、標識放流などの手法によって明らかにする		
	海洋環境	海洋環境調査				○	北海道水産現勢	主要な魚介類の漁獲統計調査	
							アイスアルジー調査	平成21年2月から3月にかけて、10日間ほどオホーツク海流氷内の生物学的調査（種組成、色素組成、DNA、生理活性等）を行う。	※服部委員
							○	羅臼沖の深海域における栄養塩類および動物プランクトン調査	動物プランクトンの出現種の特徴及び季節変化を把握し、モニタリング手法を確立する。また、羅臼町が月1回採集している深層水の栄養塩濃度データをもとに、季節・年変化の特徴を調べ、表層域におけるイベントとの関連を把握することにより、海洋環境の簡便なモニタリング手法を検討する。
					○	衛星画像及び船舶を使用した現場観測による海洋環境及び低次生産の変動に関する調査	根室海峡からオホーツク海、そして太平洋の一部に至るまでの海面水温及びクロロフィルa濃度、流水分布等の1990年代から2008年1月までのデータを衛星リモートセンシングにより収集し、海洋環境及び低次生産の変動を把握する。		
	沿岸海洋観測				○	水温・塩分・クロロフィルなど海洋観測ブイ設置	様々な海洋生物の動態に影響する環境変動を把握するための基礎となる環境要因データをウトロ沖と羅臼沖の各1定点にて収集		
その他	データベースの整理及びGIS等による統合				○	データベースの拡充	前年度までの各種モニタリング等調査結果を追加し、必要に応じて各種計画策定に必要な図面を提供する。		
	モニタリング指標の開発				○	○	長期的モニタリング項目の検討	遺産地域の自然環境を適切に管理する上で重要な指標や水準を開発する。	